

平成 28 年度 相模原青陵高等学校 不祥事ゼロプログラム（最終検証）

神奈川県立相模原青陵高等学校は、不祥事の発生をゼロにすることを目的として定めた不祥事ゼロプログラムについて、次の様に最終検証をしました。

（評価：目標を達成することが、4 できた 3 概ねできた 2 あまりできなかった 1 できなかった）

1 実施責任者

相模原青陵高等学校不祥事ゼロプログラムの実施責任者は校長とし、副校長・教頭がこれを補佐する。

2 目標及び行動計画

課題 法令遵守意識の向上（公務外非行の防止、職員行動指針の周知徹底）

取組 教育に関わる公務員としてのより高い意識の育成を図る。

目標 公務外非行ゼロを実践する。

行動 根拠となる法規等を確認するとともに、事件事例等を取り上げた研修会を実施し意識の向上を図る。

評価 4（できた）

検証 研修会等を通し意識の向上をはかるとともに、公務外非行ゼロを実践することができた。

課題 セクハラ・パワハラ・わいせつ行為の防止

取組 情報収集に努めると共に、人権感覚を磨き規範意識の向上を図る。

目標 セクハラ・パワハラ・わいせつ行為ゼロを実践する。

行動 風通しのよい職場づくりに努め、相談しやすい環境を整えるとともに、セルフチェックや研修会を実施する。

評価 3（概ねできた）

検証 事故防止会議等を通して、意識の向上を図るとともに、相談しやすい職場環境づくりに努めたが、不適切ととられる発言が見られた。引き続き風通しの良い職場づくりをしていく。

課題 体罰及び不適切な指導の防止

取組 人権感覚を磨き適切な指導体制の確立と職員個々の指導力の育成を図る。

目標 人権研修を行い人権感覚の更なる育成を図る。

行動 人権研修の実施と情報の収集に努め、複数指導体制での生徒指導を図るとともに、体罰根絶チェックシートを活用し、研修会を実施する。

評価 3（概ねできた）

検証 体罰は起きていないが、十分注意が必要である。教員一人ひとりが指導方法について振り返り、指導に伴う心のケアを心がけるとともに、職員個々の指導力の向上を図る。また、生徒指導について、複数対応が基本であることを再確認し、引き続き事故防止に努める。

課題 進路関係書類の作成及び取り扱いに係る事故防止

取組 調査書、推薦書の記載事項及び推薦基準の点検体制の周知徹底を図る。

目標 調査書、推薦書の発行ミスゼロを実践する。

行動 推薦会議を通して推薦条件の確認を行い、マニュアルに沿った点検体制の周知を図るとともに、書類発行手順の説明会を実施し周知徹底を図る。

評価 4（できた）

検証 推薦条件を口頭及び複数で確認するとともに、書類発行時の手続きをマニュアルに沿って行い、事故防止を徹底した。

課題 生徒指導要録・通知表の作成、成績処理に係る事故防止

取組 生徒指導要録・通知表作成・成績処理における点検体制の周知徹底を図る。
目標 生徒指導要録・通知表の転記ミスゼロ及び適正な成績処理を周知徹底する。
行動 各種マニュアルの整理と研修会を実施するとともに、教務手帳等の保存と廃棄について徹底を図る。
評価 2（あまりできなかった）
検証 事故防止会議を活用し、文書保存について確認をした。マニュアルに沿った点検を実施するとともに、定期的に確認や点検を行ったが、通知表に一部、単位数を誤って記載するというミスが起きてしまった。単位制支援システムへの入力の際の手順について見直しを行い、組織的に事故防止に取り組む。

課題 個人情報管理と情報セキュリティー対策

取組 携帯電話への適正な個人情報登録についての周知徹底を図る。
目標 携帯電話に登録した個人情報管理についてのセキュリティー対策を行う。
行動 個人情報持ち出し簿の管理を徹底するとともに、管理及び使用後の廃棄確認を確実に行う。また、セキュリティー対策、個人情報の管理についての研修会を行う。
評価 4（できた）
検証 登録等の手続きに関する文書を全職員に再配付し、ルールを確認するとともに、研修会を通して、個人情報の管理を徹底し事故を防止した。

課題 交通事故・交通違反の防止

取組 交通安全活動の実施により自己の交通安全意識の向上を図る。
目標 積極的な交通安全活動に取り組むことで自らの安全運転や法令遵守の意識の向上を図る。
行動 保護者、警察、交通安全協会と連携した交通安全活動の機会を増やすとともに、啓発資料の配付や研修会等を実施する。
評価 4（できた）
検証 全国交通安全運動や年末年始などの期間はもとより、年間を通した注意喚起をするとともに、資料配付や啓発活動をすることで意識の向上を図った。また、生徒の交通安全協室などで共に研修することで、交通事故・交通違反防止をすることができた。

課題 業務執行体制の確保

取組 情報の共有と点検体制の確認及び業務の継承を図る。
目標 業務協力体制の確立と情報の共有を図るとともに、業務の継承について整理を行う。
行動 職員間の情報共有、相互チェック体制、業務協力体制の構築を図る。また、業務マニュアルを活用するとともに、見直しを行う。
評価 3（概ねできた）
検証 一部の職員に業務が集中する傾向が見られた。引き続き、業務の整理及び協力体制を構築するとともに、次年度よりサブリーダーを配置するなど組織体制の見直しをした。引き続き業務マニュアルを活用していく。

課題 適正な会計処理と事故防止

取組 私費会計処理の手順を周知し点検を確実にを行う。
目標 諸規定を周知し適正な公費執行と現金管理を行う。
行動 会計事務処理の手引きを作成し研修会を行い適正な会計処理を実践するとともに、会計の見える化を図る。
検証 3（概ねできた）
不適切な執行や伝票の紛失などの事案はなかったが、一部執行が遅れるなど、会計処理が滞ることがあった。保護者からお預かりしているお金であることを再確認するとともに、

文書の整理と管理を徹底し、チェック体制を整え、適切な会計処理をする。

課題 入学者選抜に係る事故防止

取組 選抜業務事故ゼロを实践する。

目標 全職員への業務に取り組む意識の向上を図る。

行動 事件事例を踏まえ原因の検証をするとともに、教育公務員としての意識の醸成を図る。また、業務分担の工夫と個々の業務内容を確認し、さらに、点検体制について周知徹底する。

評価 4（できた）

検証 事故による事態の重大性を確認し、教育公務員としての意識の醸成を図るとともに、採点方法等について、入学者選抜委員を中心に手順よく準備を行い、複数回の不測の事態のシミュレーションや事故防止研修会、模擬練習を通して、事故を防止することができた。

3 最終検証

5つの課題で、4（できた）ではなく、3（概ねできた）、2（できなかった）との評価をした。研修等を通じて、職員一人ひとりが教育公務員であることの意識を高め、職員間の意思疎通を図るとともに、風通しのよい職場環境づくりをしていく。また、通知表の単位数誤記載について、生徒及び保護者へ謝罪をするとともに、作業手順の見直しとチェック体制の整備を行い、二度と事故が起きないよう組織的に取り組む。